

## 第72回瀬戸市文芸発表会作品募集要項

### 1 募集作品

俳句・短歌・川柳・詩

\*それぞれ自選部門・選者選部門（一般の部・小中学生の部）があります。

### 2 応募資格等

選者選部門 一般の部・・・高校生以上  
小中学生の部・・・小中学生のみ

\*選者による選考を行い、特選・入選作品を決定します。  
特選・入選作品は作品集「窯火」に掲載します。

自選部門・・・・・・・・・・制限なし

\*一人 1句（首・編）の作品を作品集「窯火」に掲載します。



### 3 応募作品数

部門	自選部門	選者選部門	
		一般	小中学生
俳句	一人1句まで	一人3句まで	一人3句まで
短歌	一人1首まで	一人3首まで	一人3首まで
川柳	一人1句まで	一人3句まで	一人3句まで
詩	一人1編まで	一人2編まで	一人2編まで

### 4 応募方法

令和5年5月1日（月）から**令和5年9月7日（木）まで**  
文化センター（文化交流館2階窓口）に直接持参していただくか、郵送で応募  
してください（消印有効）。ホームページからの応募も可能です。

<http://www.seto-cul.jp/symposium/>



※今年度から小中学生が夏休みに作品作りに取り組めるように、  
上記のように締切時期を変更します。

### 5 応募上の注意

- (1) 作品は自作で未発表のものに限ります。
- (2) 漢字は常用漢字を使用し、読みにくい漢字には読み仮名を付けてください。
- (3) 自選部門・選者選部門の両方に応募できますが、同一作品を応募することはできません。
- (4) 受付後の作品訂正はできません。
- (5) 作品は所定の応募用紙に、楷書体でボールペンまたはサインペンで濃く明瞭に記入してください。
- (6) 結果通知はこれまで自選・選外の方にもお送りしていましたが、今年度から選者選部門の特選・入選者のみとします。

裏面へ⇒

## 6 その他

- (1) 選者選部門の特選・入選作品及び自選部門作品を作品集「窯火」として発刊します。  
「窯火」には住所と氏名を掲載します。  
・住所…瀬戸市内の方は市・町名、瀬戸市外の方は県・市名を掲載します。  
小中学生の方は、住所でなく学校名・学年を掲載します。  
・氏名…雅号を記入の場合は、原則として雅号を掲載します。
- (2) 募集に関してご提供いただいた個人情報は、文芸発表会以外には使用しません。

## 7 選者 \*順不同、敬称略

【俳句】 田口風子、佐藤美恵子、加藤かな文、横田欣子 【短歌】 大塚寅彦、近田順子  
【川柳】 なかはられいこ、宮内多美子 【詩】 若山紀子

## 8 賞 \*特選の方には賞状をお贈りします。

【俳句】 *特選	一般 12 句	小中学生 12 句	*入選	応募者数により変動します。
【短歌】 *特選	一般 6 首	小中学生 6 首	*入選	応募者数により変動します。
【川柳】 *特選	一般 6 句	小中学生 6 句	*入選	応募者数により変動します。
【詩】 *特選	一般 2 編	小中学生 2 編	*入選	応募者数により変動します。

## 9 応募用紙配布場所

文化センター、市政情報コーナー（市役所一階）、3支所、市民サービスセンター  
（パルティセと・菱野団地）、図書館、瀬戸蔵、やすらぎ会館

※ホームページ（<http://www.seto-cul.jp/symposium/>）から様式をダウンロードできます。

## 10 表彰式・記念講演会 ※今年度から開催時期を変更します

特選受賞者の表彰式を開催いたします。表彰式後には記念講演会を開催します。  
今年度は戸田富士夫先生に川柳について、俳句との違いや、五・七・五短詩のよさをご講演いただきます。

日 時：令和6年2月4日（日）午後1時30分から

場 所：瀬戸市文化センター文化交流館31会議室

表彰式・記念講演会当日、特選・入選者には、作品集「窯火」をお渡しします。（特選・入選者の方で当日欠席された方は表彰式以降1ヶ月以内に限り、文化センターで作品集を無料でお渡しします。）

\*作品集「窯火」は、表彰式以降、文化センターにおいて1部500円で有料配布いたします。

\*\*\*戸田富士夫先生略歴\*\*\*

中日川柳会同人

中日新聞の投稿欄「あすなろ川柳」選者や、春日井市生涯学習活動の講師などを務める。  
著書に『芭蕉に学ぶ』（新葉館出版）、『精鋭作家川柳選集—北信越・東海編』（共著、新葉館出版）がある。

## 11 応募・問い合わせ先

〒489-0884 瀬戸市西茨町113番地3（瀬戸市文化センター内）

電話 0561-84-1811 FAX 0561-85-0415

（公財）瀬戸市文化振興財団 担当：加藤・金子